«01»

≪サイクリング特区にしき川流域の【軸】とは？≫

「道」の「自由使用」と「目的外使用」についての考察の変わらない「軸」

SBF⇒CAJ⇒Moc／その【軸】は変わらず！

「MTBの山道走行問題」に悩まされた"SBF"、「自転車ソフトの標準化問題」が浮上した"CAJ"、そして「サイクリングの法的根拠問題」から生まれた"Moc"。。。関係する要素が変わり守備範囲も微妙に変化する間も、一貫して、レースとツーリングの性格を合わせ持ち組織で道を遊ぶ【ツーリングコンペティション】を軸に、日本の実情（道路事情や余暇事情など）に合った自転車遊びを模索しながら自転車走行環境整備の必要性に触れて来たが。。。

自転車遊び利用促進実証実験／その【軸】の可能性の模索

独りツーリングコンペティションとも言える日本縦断に学生時代に何度か挑戦。また、ショップ店長の頃、"サイクル・キャンプ・コンペティション"とネーミングした企画を、長野、群馬、徳島と行う。その後の海外取材で、"MTBラリーレイド"や"ブルベ"と出会い、組織で遊ぶことの大切さを痛感し、中級上級のサイクリストを対象に、"マウンテンバイク。や"スポルティブ。の【ツーリングコンペティション】を仕掛ける。しかし、日本では時期尚早と公的には認知されず、その日本の実情へのジレンマから、実験企画で"ポタリング。版の『THT26』を生み出し、"SBF"や"CAJ"にも応用するが。。。

日本では「サイクリング」に対して大多数の人が"のんびりツーリング。をイメージし、欧米では"レースを含む、スポーツサイクリング全般。と認知されている。そのため道路を走る法的根拠も曖昧で、個人だと自由使用、集団や企画では目的外使用となる。つまり、イベントサイクリングは目的外使用の典型であり、組織で遊ぶ【ツーリングコンペティション】は、等身大企画として自由使用の範囲に収めることが可能で、その認知が自転車市民権獲得への近道と考え、『街道』『山道』『町の道』を網羅する形で"転道研"として実証実験を続けている。

サイクル県やまぐちProject後継企画／その【軸】の限界！？

2018年秋の明治維新150周年に合わせて企画された「サイクル県やまぐちProject」の後継企画を考える機会もあり、「地域貢献型マルチサイクリングクラブ」を提案したが、やはりサイクリングの法的根拠の壁に阻まれ、鶴が先か卵が先か状態。結局、予算を必要とするイベントサイクリングにしても、等身大企画が可能な【ツーリングコンペティション】にしても、運営スタッフの確保や先達的コースクリエイターの育成など、マンパワー不足が深刻な課題に！！

サイクリング特区にしき川流域／その【軸】を応用しよう！

この【軸】の限界を感じる中、"道。を遊ぶ【ツーリングコンペティション】を、"未知。を遊ぶ【ゲーム旅／THT26】に変えて、【岩国市への提言】を作成し、その一部を平成令和の超大型連休に「Go羅漢ハイランドギャザリング」として実施するものの、サイクル県やまぐちとの連携不足や、整率事項の停滞、やましろエリアの時間距離の壁などが重なり不発に終わる。しかしそれを糧に、他の移動手段や様々なジャンルを融合する「サイクリング特区にしき川流域」に辿り着く。

岩国市への提言・第二弾／その【軸】は地域を救う！

今回の"物見遊山的里山資本主義・六次産業化地域ブランド磨き後方支援企画"は、「点・線・面、広域から全国へ！」を意識し、「レディメンテナンス」としての"道普請"や"地域資源再発掘"を日々の活動としながら、「プロモーションイベント」としての「MTB系クローズドサーキットレース」や「かるたドライブ系オープン・ロードラリー」を仕掛け、それらのバランスを取りながら展開案を組み立てる「Closed & Open／Ready & Promotion」を新たに提唱！

«03»

〖山代街道物見遊山外伝//サイクリング特区にしき川流域〗

…両輪インフラ：「アクセス用ルート」と「観光用トレイル」のことで、維持管理の「スーパー先達＆観光メンテナンス」がハンドルに相当…

≪両輪インフラ・メンテナンス≫

昭和47年の日本列島改造論後の「箱モノ行政」には、負のイメージがあるものの、国土強靭化には必要な考え方です。それでも自然とのバランスを十分に意識しなければ、美しい日本は護れません。その意味でもインフラ整備は社会基盤として重要で、さらにそのマルチ効果も見逃せません。治山事業に携わる会社がその地域に存在することが、機材や人材の確保につながり、実はガソリンスタンドの維持にも寄与しています。

話しを錦川にフォーカスすると、錦帯橋の周期的な架け替えは技術伝承・人材育成のためにも必要ですが、それだけでなく、そのノウハウを他の建造物への利活用や、部材確保の森林保全も含めた、営みのサイクルを作り、それらも観光資源にするぐらいの構想があっても良いと思います。

もう少し話しを拡げるなら、錦帯橋が流失した昭和25年のキジヤ台風で、錦川沿いの国道が通行困難になり、阿品弥山から続く尾根道を辿って物資調達に向かったと向峠に住む古老が語っていました。似たような話は最近の豪雨被害や地震災害でも聞かれ、最新技術で作った道は、地形に逆らった箇所も含まれ案外脆く、人力で作った昔の峠道の方が意外と残っていて、それで命を繋いだと。。。

四国・九州も望める「羅漢山」は、南斜面に湿地帯を有する特異な地形で、宇佐川、本郷川、横道川の三方向からアプローチできますが、何れも女性ドライバーからは敬遠される酷道です。また、北側の生山峠を通る津和野街道や山上集落を結ぶ山道の一部が「中国自然歩道」に流用されていますが、それ以外は廃道と化しています。つまり、観光資源としての羅漢高原へのアプローチのための道路整備と、地域資源としての普道の道普請は、同時並行で進める必要があると言うことを、「山口むしの会」との意見交換で再認識したところです。

そして河川争奪地形もある風光明媚なこのエリアは、地殻変動や浸食作用の現場で、普道はある程度安定した場所に残っており、スーパー林道の計画ルートにはかなり険しい箇所もあって、その違いが鮮明です。しかし、両輪インフラにとって定期的なトレイルメンテナンスのための人材確保は共通の課題です。

※やましろMTBツアーズ外伝「道普請レポート」⇒ http://bikejoy.web.fc2.com/tanotsoGR/Yamashiro_Trail_Maintenance.htm

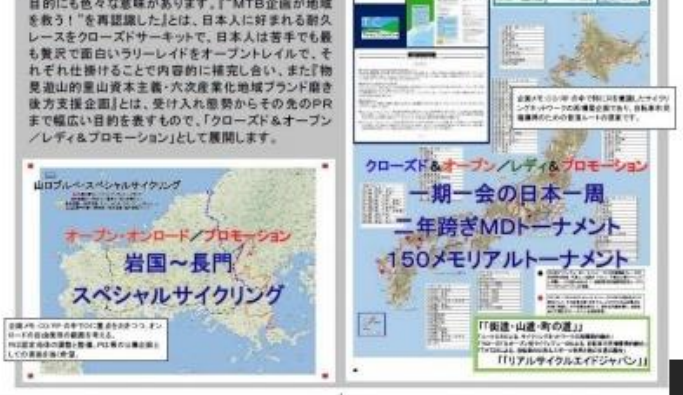
«04»

〖山代街道物見遊山外伝//サイクリング特区にしき川流域〗

※両翼ソフトとは、「クローズドサーキット」と「オープンロード」での企画のことで、「レディ＆プロモーション」が両翼の役割を担います。

《両翼ソフト・バリエーション》

10人百色に楽しまれている自転車。そのため今回も様々な内容のソフトを提案していますが、それ以上に目的にも色々な意味があります。『"MTB企画が地域を救う！"を再認識した』とは、日本人に好まれる耐久レースをクローズドサーキットで、日本人は苦手でも最も贅沢で面白いラリーレイドをオープントレイルで、それぞれ仕掛けることで内容的に補完し合い、また『物見遊山的里山資本主義・六次産業化地域ブランド磨き後方支援企画』とは、受け入れ態勢からの先のPRまで幅広い目的を表すもので、「クローズド＆オープン／レディ＆プロモーション」として展開します。



«11»

〖山代街道物見遊山外伝//サイクリング特区にしき川流域〗

物見遊山的里山資本主義・六次産業化地域ブランド磨き後方支援企画「未知を遊ぶ！やましろフュージョン！」とは？

クローズド＆オープン／レディ＆プロモーション

〈内容の補完を表す「Closed & Open」、目的の改守を表す「Ready & Promotion」、それぞれバランスを取りながら展開案を組み立てる。〉

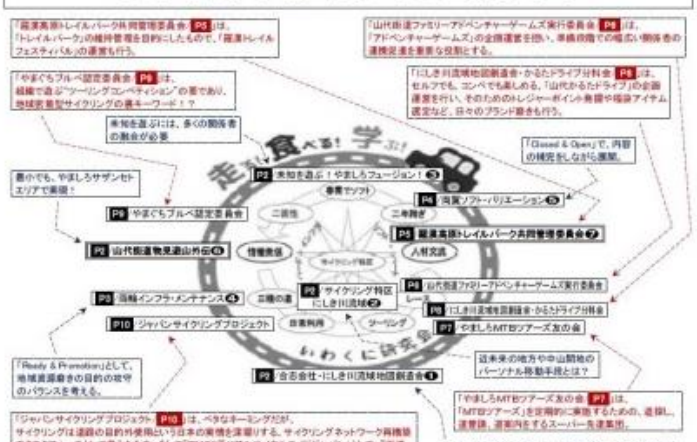
未知（未来）を遊ぶ（走る食べる学ぶ）物見遊山のように続く里山資本主義を捉え、生産・加工・販売の六次産業化の付加価値を高める、点線面で「地域／日本」を楽しむ「ゲーム旅」の提案。

ブランド（地域資源や地元産品）の活性・管理をするブランディング（ブランド磨き）の役割に相当し、「物見遊山的里山七次産業の提案」とも言え、そのコンテンツ（内容や目的）の充実（人材確保）に向けた、地域資源再発掘用の地図作りを行う「合志会社・にしき川流域地図創造舎」への融合（理解・協力・参画）を、より多くの関係者に呼び掛けているところ。

そして「点・線・面、広域から全国へ！／※注」を意識し、拠点としての"羅漢高原トレイルパーク"での「羅漢トレイルフェスティバル／クローズドサーキットイベント」を、日々のトレイル整備やトレジャーポイント調査などの準備活動的観光メンテナンス（レディ）の延長線に置き、最小目標の「山代街道物見遊山外伝」を展開する"やましろサザンセトエリア"での「山代街道ファミリーアドベンチャーゲームズ／オープンロードラリー」をその発表会的イベント（プロモーション）に位置付け、内容の補完をしあう両翼ソフトと、目的の改守を切りかえる両輪インフラの、それぞれのバランスを取りながら展開案を組み立てる「Closed & Open／Ready & Promotion」を新たに提唱！

※注 ［●点：トレイルメンテナンス＆トレジャーポイント］ …… 「にしき川流域地図創造舎」による観光メンテナンス
［～線：ツアーズ］ …… ツーリングはまに線、そして「やましろフュージョン」の軸としてのゲーム旅の複関コース
［△面：ゲーム旅］ …… 走る！食べる！学ぶ！未知を点線面で遊ぶ「山代街道物見遊山外伝」は、やましろサザンセトエリアを想定
［○広域：三方が海のこのエリアへ］ …… サイクリング特区にしき川流域は、河川争奪の現場を含む、広大錦川流域を想定
［○全国：縄文が源流のこの国へ］ …… RM26系リアルサイクルエイドジャパンとして『日本の実情』に合った自転車文化を創造しよう！？

＜＜＜ポジショニングマップ案＞＞＞



ポジショニングマップ（イメージ） ••• 「かるたドライブ」のマークに、毛利チャレンジ後継企画案の持続可能なサイクリング特区のイメージ、「サークルナイン」を合体させた、やや強引なポジショニングマップですが、かなり良いカタチに収まっている？「いわくに研究会」を「合志会社・にしき川流域地図創造舎❶」に変え、目標の「サイクリング特区にしき川流域❷」を中心に置き、「未知を遊ぶ！やましろフュージョン！❸」をテーマに、「両輪インフラ・メンテナンス❹」と「両翼ソフト・バリエーション❺」が左右にクマくマキ、それぞれの課題解決やイベント実施の分科会や実行委員会を配置するイメージ。その中で大事なのは太線の"情報発信"として「山代街道物見遊山外伝❻」と、"人材交流"としての「羅漢高原トレイルパーク共同管理委員会❼」になる！！

«B»